

会員の広場



『2022年(令和4年)寅年』について

田川 修司(東京)

2022年(令和4年)は寅年です。漢字で書く場合には、干支の意なら「寅」、動物の意なら「虎」をあてるのが一般的です。

「寅は弓矢を引き絞る形を表した文字で「引」張る」「引き伸ばす」の意味が有り、虎は決断力と才知の象徴とされる。

虎は、勇猛果敢な人々に恐れ重んじられています。

「虎は千里を走る」、獣の王者である虎は、一日に千里の距離を走り千里戻ってくることでできるほど、勝れ

た行動力を持つていると言われる事から、人やものの勢いが非常に盛んな様子のたとえです。

今年は、好景気での成長が期待できる年になると良いですね。一休さんのとんち話「びょうぶのトラ」とか少年がトラに遭遇する「ちびくろサンボ」虎がぐるぐる回って最後はバッテリーになるという面白いお話とか、「虎の威を借る狐」、権力者の権勢をかさに着て威張る者の喩とかいろいろと身近に虎の話題が沢山あります。

虎は寒帯から熱帯まで大陸に幅広く分布し森林地帯などに生息しています。現在では世界11カ国に約3000頭の野生のトラが生き残っているのみで、まさに絶滅の危機にあるようです。インドやネパールのベンガルトラ、インドネシアにいるスマトラトラ、中国北東部にいるシベリアトラなどに分けられます。赤みがかった黄色や黄褐色の体毛に、黒い縞模様が入っており藪などでも目立たず獲物に近付くことができます。肉食で猛猛です。昼間も活動しますが主に夜行性で、繁殖期以外は単独で生活します。泳ぎも上手です。野生の寿命は15年程度です。

虎と人の付き合いは長く、昔から親しまれてきたので、虎・寅・トラ・とらにまつわることわざなどが沢

山あります。すぐに思い浮かぶのは「虎の子」(虎は子供を大事に育てる事からとても価値の高いものの喩)。

「虎の巻」(兵法、芸道・秘伝書、あんちよこ)「虎の皮」(虎の皮の褌(敷物などに珍重される)「張り子の虎」、「虎に翼(強いもの、向かうところ敵なしの状態になる様子を表した)もの)、「竜虎相搏」(強い者同士が激しく戦う事)、「竹に虎」(野生の虎は日本には生息しておらず、昔は目にする事が出来ない空想の動物でした)、「虎の子渡し」(南禅寺、龍安寺に虎の子渡しの石庭)、「虎の髭を拈る」(きわめて危険な行いをすること)、「虎三日にして牛を食らう気あり」(才知のすぐれた人は、幼少時よりその片鱗を示す事)、「虎穴に入らずんば虎児を得ず」(きわめて危険な行いをすること)、「前門の虎、後門の狼」(災難が次から次へと襲ってくる事)、「虎口に臨む」(危険な場所や事柄の事)、「虎視眈々」(強い者が機会をねらって形勢をうかがっているさま)、「千里の野に虎を放つ」(災いのもとになる危険なものを放置するたとえ)、「虎は死して皮を残し人は死して名を残す」(猛虎は死後も珍重される、人は死後に名前を残すような生き方をすべきだ)、「捨身飼虎」(薩埵王子が飢えた虎の親子を救

うために、我が身を虎の餌にする)、「苛政は虎よりも猛なり」(孔子が泰山のふもとに來ると婦人が墓の下で泣いており、そのわけを聞くと「以前、虎に親と夫を殺されました。さらに今、息子も殺されたのです」と答えた。孔子が「ならば、何故この地から出て行かないのか」と尋ねると「ここでは厳しい悪政が行われているからです」と苛酷な政治は虎よりも恐ろしいのだという故事に基づく)等々色々な諺があります。諺には鋭い風刺や教訓・知識などが沢山入っていて不思議に人を引き付ける力があります。干支についての諺とか格言とか話をまとめる事を行ってみました。調べてゆくとその誕生は古くそして長く語り継がれてきた歴史や教訓などを感じたり、長い時間をかけて形成された楽しい事柄が一杯ありました。

世界中を大きく変えた新型コロナウィルスですが、人々の価値観にも変化が出てきています。最近、新しい変異株が広がり日本も見通しの付かない大変な状況ですが、早くに収束に向かい安心・安全の生活が出来る日々を願っています。

(寅・虎・とらのことわざに興味のある方は、事務局に連絡をくだされば興味あふれる資料を提供します)